

# 「食べる」と 自然と共生する生き方を 恵みを味わいながら語りあう

会場：水越屋 5 階（鳥取駅から徒歩 3 分 鳥取駅前アーケード街サンロード内：鳥取市栄町 621）

※駐車場がありませんので、近くのコインパーキングなどをお使いください

2人のお話に耳をかたむけ、吉永農園のお米と三朝町でとれたイノシシ鍋を囲み一緒におしゃべりしましょう！

## 菅野正寿 すげの せいじゅ さん

前 NPO 法人福島県有機農業ネットワーク理事長、元 NPO 法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会 理事長、ふくしま東和有機農業研究会副会長、里山文化あぶくま研究所共同代表



## 吉永昇平 よしながしょうへい さん

鳥取市国府町栃本で吉永農園主宰。子ども達が安心して食べることができるお米づくり、毎日食べたくなるお米づくりを追求して日々農作業に精進中。



福島県二本松市旧東和町生まれ。現在、水田 3ha、雨よけトマト 14a、野菜・雑穀 1.5ha、農産加工所(餅、おこわ、弁当)による複合経営(あぶくま高原 遊雲の里ファーム 主宰)、農家民宿「遊雲の里」を里山と都市をつなぐ体験交流拠点として、農業体験や避難地域視察などを通して食と農の価値を伝えつづけている。

2019年に福島の実験と教訓を伝え里山文化の価値を学ぶ「里山文化あぶくま研究所」を大学研究者と設立。共著『農と土のある暮らしを次世代へ』(2018)、『放射能に克つ農の営み』(2012)、『脱原発社会を創る 30 人の提言』(2011)など。

熊本県水俣市生まれ。HP より:「栽培している山間地域は、水も空気もキレイで、絶滅危惧種に指定されている「モリアオガエル」や「アカハライモリ」なども生息しています。その地で、極力農薬の使用を控え、菜たねの油かすや鶏糞など、有機質肥料で栽培したお米を作っています。

大学卒業後、農業研修を経て鳥取に I ターンし、就農定住。自分が思い描く農業と現実のギャップに苦しみ(獣害、過疎、高齢化による農業離れ etc.)ながらも、農業経験を積むにつれ、子供が生まれたことがきっかけとなり、「有機農業」の夢や重要性に気づき、減農薬、有機質肥料での米づくりにチャレンジ。また、小面積で有機栽培にチャレンジすべく無農薬、無化学肥料での栽培を始めています。」

主催：市民エネルギーとっとり

参加費：500 円

問合せ・申込先：070-5554-5813 (食材の準備のため、極力事前にお申し込みください)

独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受け開催します

